はじめに

本講座では、『ロジカルスキル大全』という名のもとに、全部で 14 のロジカルスキルを紹介していきます。ロジカルスキルとは、ロジカルシンキングをベースとした仕事上のスキルを意味します。

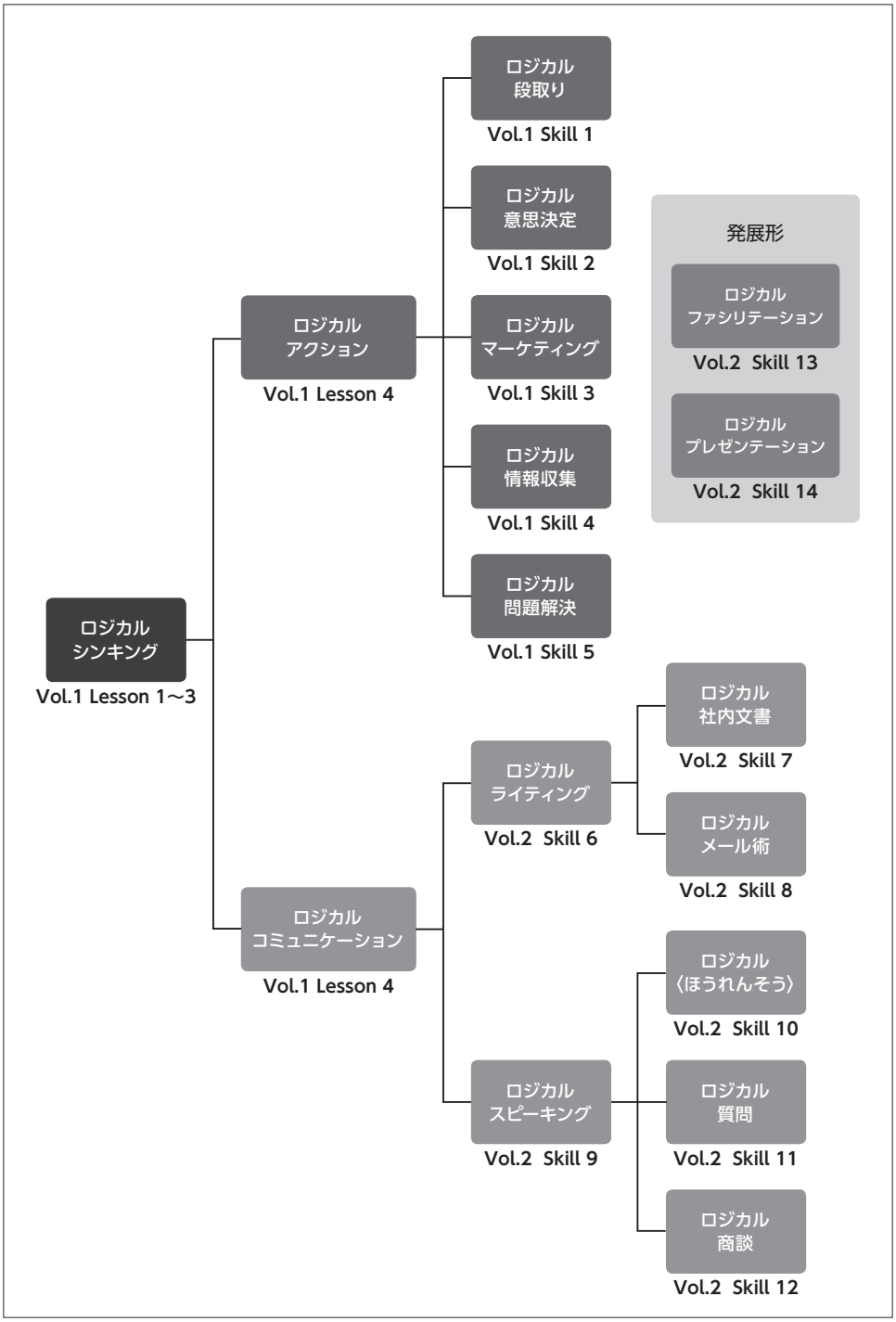
ロジカルスキルは、主として自らの行動に関わるロジカルアクションと、他者との関係を前提としたロジカルコミュニケーションの 2 つに大きく分類されます。後者はさらに、社内文書やメールを作成する際のロジカルライティング、ならびに、質問や商談に生かせるロジカルスピーキングの 2 つに分けられます。加えて、これらのスキルの発展形として、ロジカルファシリテーションおよびロジカルプレゼンテーションという 2 つのスキルにも言及します。すべての基礎にあるロジカルシンキングと個々のスキルがどのような関係性にあるのか、右の図に示していますのでご覧ください。

また、第1巻の前半部では、現在のビジネスシーンにおいてロジカルシンキングが必要とされる理由や、そもそもロジカルシンキングとは何か、あるいは、物事をロジカルに考える際のヒントについても、理解を深めていただくために解説します。まずは、それらをしっかりと確認し、ロジカルスキル習得に向けた基礎としてください。

スキルを習得したあとは、実践的なトレーニングが待っています。ワークブックの形で、全部で 5 つの具体的なケースを用意しました。基礎編、応用編、上級編と難易度別に分かれており、スキルアップの状況をチェックすることができます。なかには難しい問題もあるかもしれませんが、積極的なチャレンジを期待します。何より大切なのは、「正解」を発見することではなく、考えることそのものにあります。ロジカルシンキングを駆使して、それぞれの問題をしっかりと考える。その点を徹底してください。

本文のなかでもくり返しお伝えしますが、ロジカルシンキングならびに個々のスキルは、すべて仕事の成果を出すために存在しています。しかも、効率を最大限に発揮し成果を出す、それもまた大きな目的のひとつです。効率も成果もあがる 14 のスキル。本講座での学びを通じて、論理の力を駆使し、ぜひとも自分史上最高の効率と成果を手にしてください。

ロジカルシンキングと各ロジカルスキルとの関係



ロジカルスキル大全

Vol.1　ロジカルシンキング＋ロジカルアクション

はじめに …… 2
学習のすすめ方 …… 6

第１章　ロジカルシンキング

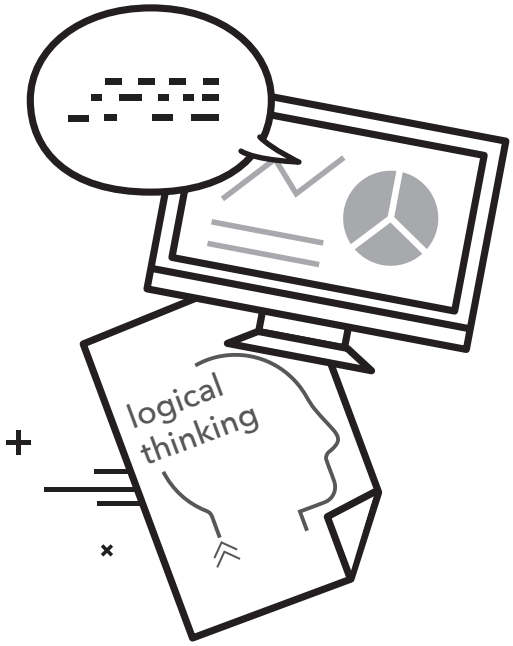
Lesson 1　今、なぜ「ロジカルシンキング」が必要か？ …… 8
Lesson 2　「ロジカルシンキング」とは何か？ …… 18
Lesson 3　「ロジカル」に考えるヒント …… 30
Lesson 4　ロジカルアクション／コミュニケーション …… 46

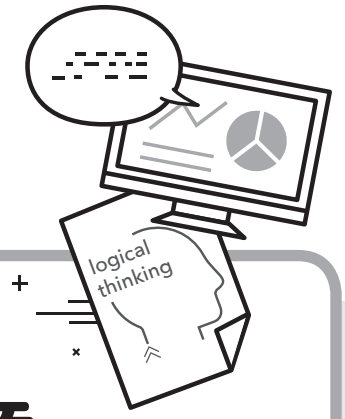
第２章　ロジカルアクション

Skill 1　ロジカル段取り …… 60
Skill 2　ロジカル意思決定 …… 70
Skill 3　ロジカルマーケティング …… 82
Skill 4　ロジカル情報収集 …… 94
Skill 5　ロジカル問題解決 …… 106

— 効率も成果も上がる14のスキル —

CONTENTS





第１章

ロジカルシンキング

Lesson 1　今、なぜ「ロジカルシンキング」が必要か？

Lesson 2　「ロジカルシンキング」とは何か？

Lesson 3　「ロジカル」に考えるヒント

Lesson 4　ロジカルアクション／コミュニケーション

学習スケジュール

	予定日［月／日］	実施日［月／日］
Lesson 1	[　／　]	[　／　]
Lesson 2	[　／　]	[　／　]
Lesson 3	[　／　]	[　／　]
Lesson 4	[　／　]	[　／　]

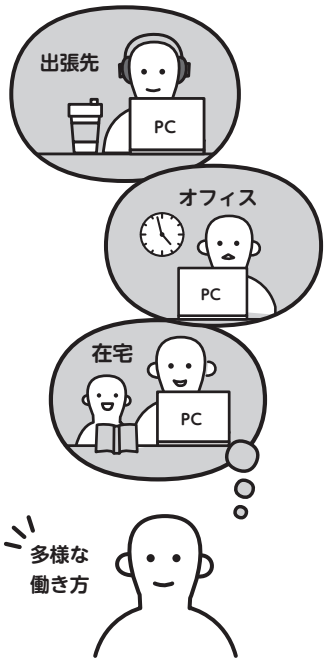
Lesson 1 今、なぜ「ロジカルシンキング」が必要か？

☑ **Lesson1 を理解するポイント**

1) 「働き方」が変わる、「働く人」が変わる、だからこそ「効率的に働く」。
2) 誰もが同じ「ツール」を使う、だからこそ「同じ考え方」が必要になる。
3) 多様化する価値観を結びつけるもの、それが「ロジカルシンキング」。
4) 「成果」を出すためにこそ、「ロジカルシンキング」を駆使していく。

ビジネスを取り巻く現状

① 「働き方」の変化



政府が主導する「働き方改革」。その言葉は、誰もが知るところとなっています。ですが、その本質的な意味を、どれだけの人が理解できているでしょうか。

「要は、残業を減らせってことだよね」そんな誤解が世の中に蔓延しています。もちろん、**労働時間の短縮は欠かせません。しかし、それだけでは、状況はかえって悪化するばかり。**無理に早帰りさせられることの弊害は社会のいたるところで見受けられます。そんなことを続けていては、本当の「改革」など、いつまでたっても実現されません。

だからこそ、「働き方改革」の目指すところを理解する必要があるのです。**その本質とは、「働き方」自体を変えていくということです。**全員が一律に同じ働き方をするのではない、個々人の異なる価値観をふまえた、異なる働き方を意識することです。つまり、働くという行いに対する意識を変えていくことこそが、私たちに求められる真の「改革」なのです。

②　「働く人」の変化

高齢化の進展とともに、健康年齢もまた上昇しました。今や誰もが「人生100年時代」を当然のように前提としています。このような「働く人」の変化もまた、これからの私たちがしっかりと受け止めていかなければならない問題です。

これまでよりも、長い年月を働くということ。そのことは、今とはちがって、あるいは、今まで以上に、**働く人々の層が多様化していくこと**を意味しています。だからこそ、働き方もまた多様なものになっていくのです。さらに、テクノロジーの進展は、まったくとどまるところを知りません。これまで人間は、自分の働き方に技術を合わせてきました。しかし、**これからの時代は、進化する技術に対して人が合わせていくこと**が求められます。もちろん、「人間が科学の奴隷になる」といったことではありません。そうではなく、仕事の大部分を技術の力に委ねる私たちは、**技術に合った働き方をする方がより一層効率的になっていく。**そのような意味においても、働く人自体が変化していく必要があるということです。

③　「効率的に働く」ということ

「働き方」や「働く人」が変化していく。この２つの変化がうまくマッチするのはいったいどのような場合なのでしょうか？　すでに見てきたように、答えは「効率的に働く」ことができている場合となります。単に表向きの労働時間を短縮するのではなく、**私たちが時代の技術に合った働き方をしっかりと身につけること、つまり、自分にもっともマッチする働き方を実現していくこと**が何よりも重要なのです。自分らしい働き方の実現は、仕事におけるひとつの幸福です。そして**幸せは仕事のアウトプットにもプラスの影響を与える**ことが、多くの研究により判明しています。その意味でも、人と働き方とのマッチングが大切なのです。

そのようなマッチングを可能にするツールこそが、まさに「ロジカルシンキング」です。共通のツールが人を幸せにし、さらに効率的な働き方を実現していくのです。ただ、内容に詳しく入る前に、もう少し背景を確認していきます。

MEMO

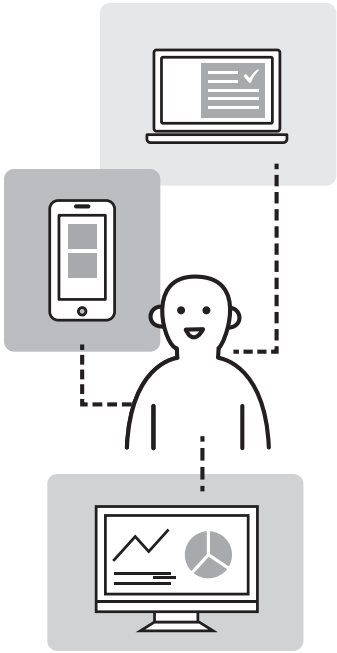
Lesson 1　今、なぜ「ロジカルシンキング」が必要か？

加速するIT化

①　人がテクノロジーに合わせていく

21 世紀に入って以降、技術の進化の勢いには目を見張るものがあります。そのなかでも IT 技術の進展は、まさに加速度的に進んでいるといって差し支えありません。今のように、仕事で PC を使用するのが当たり前になってから、実際にはまだ、四半世紀ほどの時間しか経っていないことに、正直なところ驚きを禁じ得ません。

しかし、**このような技術の進展は人間というものを置き去りにしている。**端的にいえば、人間の能力の限界を超えるレベルで技術の未来が追求されているという批判が存在します。残念ながら、それは事実であるといえるでしょう。しかし、それがよいか悪いか、といった判断は別として、私たちは、この現状を積極的に受け入れていく必要があります。つまり、**何とかテクノロジーに追いついていく、さらに、それらを自分の働き方に結びつけていく、そんなスタンスが求められる**ということです。その理由については、先にも述べたとおり、効率化という点と深く結びついています。ここでも改めて確認しておきましょう。



②　誰もが同じ「ツール」を用いる

IT 技術は、今や世界のビジネスシーンを覆っています。誰もが同じような PC を使用し、同じような OS やアプリケーションを用いて仕事をしています。相手と同じツールを使っていることが、現代のビジネスにとっては必須の要件です。

IT とは仕事にとっての「ツール」です。**IT 化が進んだことによって誰もが同じツールを使用する時代になりました。**誰もが同じ OS を使用し、独自の OS を使っている人など、私たちの周りには一人として存在しません。その点を正確に認識できなければ、これからの時代に必要なビジネス思考について考え

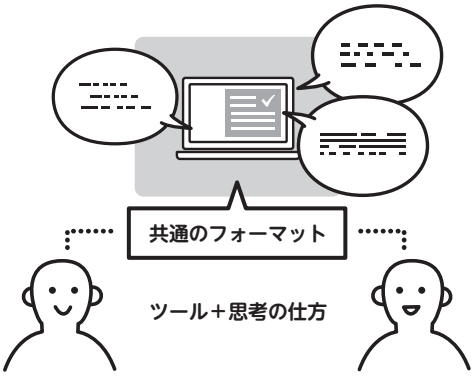
ることなどできません。**同じツールの使用は、同じ「使い方」を要求します。**同じスポーツやゲームに参加するのに、自分だけ独自のルールでプレイすることなど決して許されない。そんな風に考えてみると、同じであることの意味がご理解いただけるのではないでしょうか。

③　だからこそ、「使い方」が重要になっていく

誰もが同じ「ツール」を使うだけでなく、その「使い方」までもが同じ仕様になっていく。まさにそれこそが、現代のビジネスシーンに特徴的な出来事です。だからこそ、全員が同じ土俵に立って、公平な競争に参加することができるのです。

上記でいう「使い方」とは、「考え方」に置き換えることが可能です。PC などの実際的な**ツールだけではなく、思考の仕方そのものについても共通のフォーマットを使用していく。**その点を理解しておくことがとても重要です。

そして、共通のフォーマットを用いたビジネス思考こそがまさに、本講座でいうところの「ロジカルシンキング」なのです。誰もが同じように考える。**同じ「論理」を用いて考える。だからこそ、価値観や文化が異なる人とも、適切かつ実のある方法でコミュニケーションを図ることができる**のです。そうすることにより、「効率的に働く」ことが可能になります。



MEMO

価値観の多様化

① 「常識」がなくなっていく

時代の変化とともに、人々の価値観は細分化し多様化しました。それもまた、ビジネスに「ロジカルシンキング」が必要とされる、ひとつの大きな理由となっています。

ビジネスパーソンという表現はなく「サラリーマン」との呼称が常識だった**昭和の時代、ビジネスの世界には強固な「モデル」がありました。**まじめに働いていれば、きっと課長くらいにはなれる。そうなればそれなりの退職金がもらえて、郊外にきれいな戸建てを買うことができる。そこに孫が遊びに来る。年金も安泰だ。そんな老後のモデルを、多くのサラリーマンが実際に抱いていました。しかしながら、終身雇用制度は崩壊し、年金制度は先行き不透明、戸建てを購入して……などと悠長に構えている余裕は完全になくなりました。いわば、私たちの「常識」がすっかり崩壊してしまったわけです。

ビジネスシーンに「常識」が存在しない以上、みんなが同じ方向を向いていくためには、それに代わる何らかの存在が必要です。まさにそのような存在こそが「ロジカルシンキング」なのです。

② 多様化する「モデル」

かつての「常識」を大きなモデルと仮定するならば、それがなくなってしまったことで、社会には多くの小さなモデルが生まれたといえます。その結果、今の社会には同じ生き方を強制されることに対しての非常に強い反感が生じています。それは、たとえば、飲み会への参加をめぐる世代間の摩擦など、ワーク・ライフ・バランスに対する考え方のちがいとして理解されたりもします。

価値判断の是非は別として、こうした変化によって、少なくともビジネスの世界はさらに複雑さを増しました。マネジメン

トが高度化したといわれるのも、明らかにこうした理由によります。個々人の価値観をしっかりと尊重しながら、それでいて、全員が**ひとつの方向を目指して進んでいくためには、それなりの武器が必要となります。**そのような武器こそが、まさに共通のフォーマットということになるわけです。

③　いくつものモデルを結びつける「ツール」

すべての社員が同じ方向へと進んでいくための共通のフォーマット。しかし、そのようなツールは、必ずしも同じ組織のなかだけで考えるべき問題ではありません。社外のビジネス相手の方がむしろ、同じ組織の人間とは異なる価値観や企業文化を持っています。**そうした人との結びつきを考える際にも、「ロジカルシンキング」は極めて有効なツール**となります。

依拠するモデルはちがっていても、仕事の場面では、すべての関係者が同じ課題について思考をめぐらせます。**その際に、共通する思考方法を活用し、そのうえで議論を戦わせる。だからこそ、個々の課題を「成果」へと結びつけていくことができる**わけです。考え方までバラバラでは、Win-Win の関係が象徴するようなビジネス関係を築くことなど不可能です。世界がグローバル化し、価値観や文化が異なる人たちとも、積極的にビジネスを行う時代になりました。そこにもまた、「ロジカルシンキング」の深い存在意義が認められます。まさにワールドワイドの共通フォーマットなのです。

MEMO